

検証・浦和電車区事件の真実 要約版 4号

(No.16~20)

民主化闘争情報 [号外] 2008年6月4日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

東労組の計画通り行われたY氏への糾弾行動！

2月13日の臨時職場集会では、上原、山田、小黑、大澗、斉藤の各被告ら20数名が出席して、「裏切り者！」「給料泥棒！」「主任を辞めろ！」「ボーナス返せ！」「お前は人間じゃない！」「ウソつき！」「薄汚い野郎だ！」など、人格を否定する下品な罵声をY氏に浴びせ掛けた。そして大澗被告より「脱退を表明しろ！」と迫られ、Y氏がやむを得ず参加者全員の前で「東労組を脱退します」と言った。しかし、それでも治まらず、「組合を辞めるだけで終わりなのか！」「そんなにJR東海がいいのならJR東海に行けよ！」などとさらに糾弾された。明らかに「JR東労組を裏切ったからには会社を辞めて責任を取れ」と迫る趣旨の発言だった。Y氏は、組織的に自分を退職に追い込むつもりだと確信した。

泊まり勤務でフラフラのY氏を罵倒し続ける

翌14日も、20~30人が集まり、梁次、山田、斎藤、八ツ田の各被告らも出席していた。この日も前日同様、「脱退を表明しろ！」と脅され、Y氏が仕方なく「東労組を辞めます」と言う、「おまえ脱退を表明すればいいと思ってるんじゃないぞ！」「辞めたらボーナスはどうするんだ！」「主任はどうするんだ！」などと次々と詰問された。

前日、糾弾集会の後、泊まり勤務に就き、勤務終了後の11時半から再び集会に、14時からさらに午後の集会に出席させられ、吊し上げを受けたことで、Y氏は肉体的、精神的に限界に達していったのである。

シナリオ通り追及が進められた職場集会

実は、この集会の前段にY氏が待機させられている間、参加者全員で分会が発した「闘争宣言」を読み合わせていた。「闘争宣言」には、「われわれは、Yの発言自体がグリーンユニオンの意を体し、YがJR東労組の組織を破壊せんと行動したことを全組合員に明らかにするものである。よって、Yはわれわれの今後の様々な闘いに対する妨害者でしかないことをここに明確にし、あらゆる組織破壊攻撃に対し、全組合員で闘いを挑むことを明らかにする」と記載され、さらに「われわれの闘いの前進を妨害するYを全組合員の怒りをもって糾弾し」と述べている。参加者は、この趣旨に基づき、Y氏を順々に追及していったのである。

まさに、この「闘争宣言」のシナリオ通り、東労組にとって「闘いに対する妨害者」であるY氏を「全組合員の怒りをもって糾弾し」、脱退に追い込んでいったことは明らかなのである。

シリーズ第16号~第20号の経過

- | | |
|-------------|---|
| 2001年 2月13日 | 電車区講習室で臨時職場集会。参加者20数名から糾弾され、脱退表明させられる。副区長にボーナスの返金方法を相談【No.16参照】 |
| 2月14日 | 泊まり勤務明け、前日に続き午前と午後の臨時職場集会。再び、参加者20~30人から糾弾され、脱退表明させられる【No.17参照】 |
| 2月15日 | 両日も午前と午後の臨時職場集会。罵詈雑言を浴びせる被告ら東労組組合員。闘争宣言に |
| ~16日 | 基づき計画的に行われた糾弾行動【No.18,19,20参照】 |